

は右視野刺激で著しく延長していた。BOLD functional MRI では有意な左右差を認めなかった。hemianopsia の病態把握のために functional MRI, VEP は両者とも有用で、前者は臨床症状に対応し、後者は潜在する病巣を検出できると考えられる。

10) Complicated migraine の ^{123}I -IMP-SPECT 所見

小澤鉄太郎・桑原 武夫
犬塚 貴・佐藤 修三 (新潟大学脳研究所)
辻 省次 (神経内科)
小田野行男 (同 放射線科)

[目的] Complicated migraine の発作時と寛解期の脳血流を比較検討する。

[方法] 当科で経験した Complicated migraine 患者 4 例について、発作時と寛解期で ^{123}I -IMP-SPECT を施行し early image と delayed image を比較する。

[結果] early image については 4 例とも、発作時、寛解期とも tracer uptake の低下が認められ、さらに発作時の低下が著しかった。delayed image では 4 例とも発作時の再分布不良が認められたが、発作頻度の低い 2 例では寛解期に再分布は改善したが、発作頻度の高い 2 例では全く改善しなかった。

[考察] Complicated migraine では、発作時、寛解期とも脳血流は低下しており、頻回の発作により、脳組織に何らかの障害を残すことが示唆された。

II. 特別講演

「MR による脳機能代謝画像」

京都府立医科大学脳神経外科・放射線科

成瀬 昭二 先生